

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年9月16日（月）

活動隊員：金谷雅代

1. 活動期間

2024年9月10日（火）8時30分 ~ 2024年9月12日（木）17時00分

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

珠洲市立宝立公民館（珠洲市宝立町鵜飼卯46）

集会所：正院町第2団地集会所（旧正院保育所：珠洲市正院町正院を4）

宝立町第1団地集会所（珠洲市宝立町鵜飼丑83）

正院町第1団地集会所（珠洲市正院町川尻1部39番地）

応急仮設住宅：正院町第1団地（珠洲市正院町川尻1部39番地）

3. 珠洲市の被害状況（9月10日 14時現在 石川県庁情報第158報）

人的被害 死者 126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,738棟、半壊：2,049棟、一部損壊：1,750棟 非住家被害：5,963棟

避難所 開設15箇所 避難者数156人

4. 避難所の状況

【避難者数】

1) 大谷小中学校 9月10日：17人

2) 宝立公民館 9月10日：22人

【避難所運営と生活状況】

1) 大谷小中学校 訪問日時：9月10日（火）9時15分

避難所運営者に状況を伺った。避難所内に健康状態が気になる方はいないとのことだった。小中学校の断水が解消され、屋内のトイレが使用できるようになっていた。有志で毎日清掃されており、清潔が保たれていた。

グラウンドに仮設住宅の建設工事が進んでおり、外周の足場が取り外され、屋内の設備等の工事に入っているとのことだった。

2) 宝立公民館 訪問日時：9月10日（火）15時30分

公民館主事に避難所内の状況を聞いた。避難所内に健康状態が気になる方はいないとのことだった。

避難者2人に生活状況等を聞いた。すぐに対応が必要とは話さないが、義歯の問題を訴え、地域の歯科診療についての課題がうかがえた。

5. 支援活動の実際

【地域コミュニティ支援】

1) 正院町第2 団地サロン

開催日時：9月10日(火) 13時30分～15時

開催場所：旧正院保育所

参加人数：7人

開催内容

ささえ愛センター職員が新聞紙の飾りづくりを行い、会場準備等の補助を行った。参加者は制作をしながら、ゴミ収集の問題を話していた。参加者には仮設団地入居者だけでなく、在宅の方もおり、和やかな雰囲気談笑されていた。

2) 宝立町第1 団地 お茶会「宝立集いの会」

開催日時：9月11日(水) 13時～15時

開催場所：宝立町第1 団地集会所

参加人数：8人

開催内容

折り紙を実施した。器と上蓋付き箱の作成を目指した。器を一つ作成した時点で、参加者は手順を習得しようと、2つめに取り組んだ。箱の下部分を作成した時点で時間となり、終了とした。避難所が宝立小中学校から宝立公民館に移動になったことについて、お茶会参加者が避難所生活者を気遣う言葉が聴かれた。

3) 正院町第1 団地 お茶会「いっぷくせん会ね」

開催日時：9月12日(木) 13時30分～15時30分

開催場所：正院町第1 団地集会所

参加人数：9人

開催内容

折り紙を実施した。小物を入れる器と、蓋付き箱を作成した。蓋付き箱には折り紙を8枚使うこと、4枚は同じものを折ることを伝えてから取り組んだ。お互いに相談しながら、教え合いながら作成していたが、組み立てに時間を要した。

参加者の血圧測定と健康状態の確認を行った。血圧が高い人はいなかった。

【エリア会議出席】

開催日時：9月11日(水) 9時～11時20分

開催場所：珠洲ささえ愛センター

開催内容

3つのエリア別に各支援団体とエリア担当保健師、ソーシャルワーカーが参加して個別の課題、コミュニティの課題について情報共有しながら検討している。

コミュニティバスが通っていない地域もあるが、通っている所ではダイヤが見直されたことで、住民の利便性が上がったという声が聴かれるとのことで、住民の声が反映されていることが分かった。新規に建設される仮設住宅では、入居者の元住所が多様で、コミュニティ形成が課題となることも共有されていた。

【要支援者訪問】 訪問日：9月11日(水)、12日(木)

ささえ愛センター担当者から依頼された1軒へ訪問した。支援対象者は健康状態に問題なく過ごして

いた。夫の状態をみてもらいたいとのことで、状態観察を実施したところ、食思不振、睡眠不足の訴えがあり、数日臥床がちであると訴えられた。微熱もあったため、通院予定日を前倒して受診するよう勧めた。妻の世話で疲労が蓄積している様子だった。翌日訪問したところ、足取り軽く玄関先まで出てこられ、解熱したこと（実測も 36.8 ）、買い物に出かけられたこと、昼食も摂取していることを話された。

6. 支援活動を通しての所感と課題

正院第2団地でのお茶会に参加したが、参加者は仮設住宅入居者だけでなく、在宅の方もおられ、お茶会が地域の方全体に広報され、交流が行われていることが実感できた。

宝立地区、正院第1集会所でのお茶会で折り紙を実施したが、予想以上に時間がかかり、参加者の達成感が十分得られなかったことが反省点である。楽しんでもらえ、ゆっくり話ができる内容を検討していく。

正院第1団地でのお茶会中に、掃除機の故障を訴えてこられた住民に、民生委員の方が対応されていた。集会所へ行けば誰かがおり、対応できる人がいることや体制があることは住民にとって心強いと考える。

訪問先の避難所の環境や避難者の健康状態に問題はなかったが、避難所生活は長引いており、また、宝立公民館避難所の避難者の中には、2次避難所から戻ってきて公民館での生活を送る人もいるため、引き続き避難所生活者の状況を見守っていく必要がある。